

広島市におけるがん検診の実施状況について

1 広島市におけるがん死亡

(1) 75歳未満のがんによる年齢調整死亡率の年次推移

(10万人当たり)

平成 7 年度	平成 12 年度	平成 17 年度	平成 22 年度	平成 27 年度	令和 2 年度
117.2	96.5	86.6	78.2	67.9	62.8

出典:令和2年人口動態統計(厚生労働省)

(2) がんの部位別死亡数

ア 男性

(人)

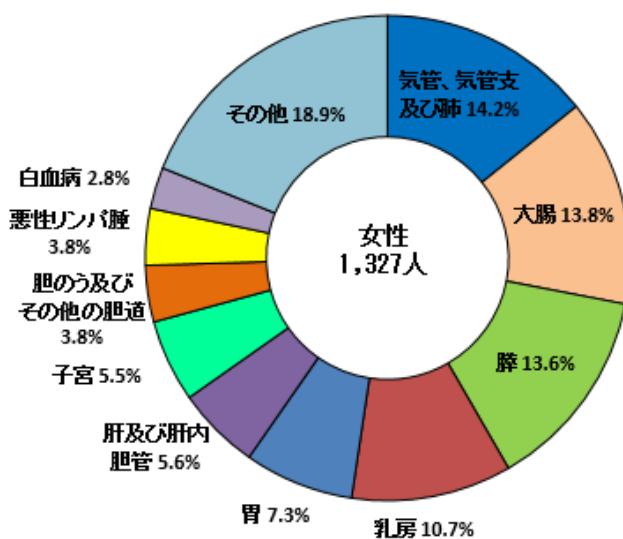
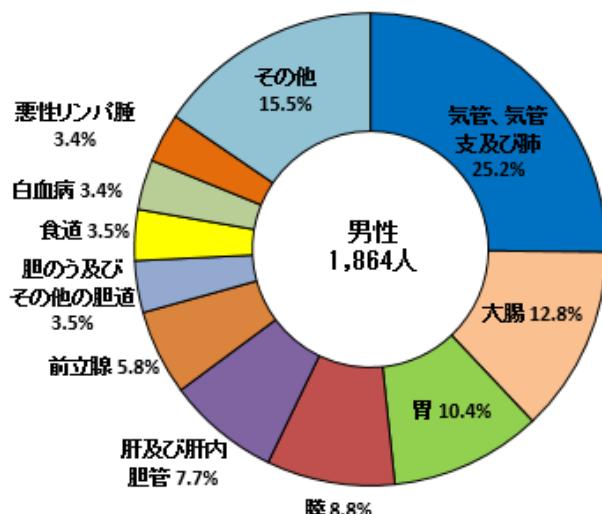
令和 6 年	順位	第 1 位	第 2 位	第 3 位	第 4 位	第 5 位	第 6 位	第 7 位	第 8 位	第 9 位	第 10 位	その他	計
	部位	気管、 気管支 及び肺	大腸	胃	肺	肝及び 肝内胆 管	前立腺	胆のう 及びそ の他の 胆道	食道	白血病	悪性リ ンパ腫		
	人数	470	238	194	164	144	109	66	65	64	63	287	1,864
令和 5 年	人数	①440	②208	④174	③175	⑤160	⑥95	⑩59	⑦76	⑧62	⑧62	301	1,812
令和 4 年	人数	①470	②205	④165	⑤141	③175	⑥99	⑦73	⑨58	⑩54	⑧63	263	1,766

イ 女性

(人)

令和 6 年	順位	第 1 位	第 2 位	第 3 位	第 4 位	第 5 位	第 6 位	第 7 位	第 8 位	第 10 位	その他	計	
	部位	気管、 気管支 及び肺	大腸	肺	乳房	胃	肝及び 肝内胆 管	子宮	胆のう 及びそ の他の 胆道	悪性リ ンパ腫	白血病		
	人数	189	183	181	142	97	74	73	50	50	38	250	1,327
令和 5 年	人数	①223	②206	③196	④118	④118	⑥76	⑦62	⑧47	⑨45	⑫40	256	1,387
令和 4 年	人数	②169	①194	③150	④118	⑤95	⑥73	⑧54	⑦55	⑨49	⑩40	252	1,249

図 令和6年 がんの部位別死亡割合



出典:令和6年人口動態統計(厚生労働省)

(3) 広島市におけるがん罹患数 (上皮内がんを除く)

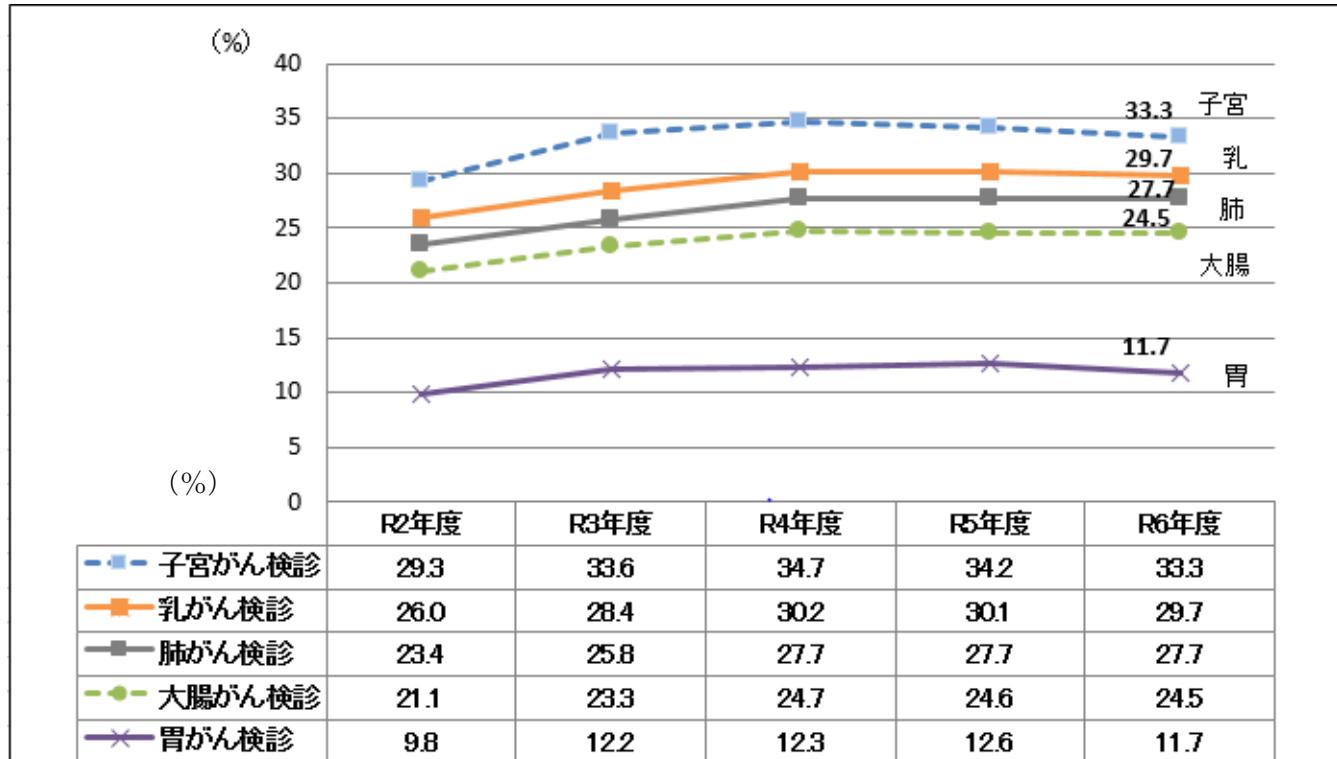
(人)

		胃	大腸 (直腸・結腸)	肺	乳房	子宮	その他	計
令和 2 年	男	616	672	749	2	-	2,752	4,791
	女	325	562	385	875	274	1,413	3,834
	計	941	1,234	1,134	877	274	4,165	8,625
令和元年	男	813	688	764	14	-	2,679	4,958
	女	393	614	411	989	262	1,575	4,244
	計	1,206	1,302	1,175	1,003	262	4,254	9,202

出典:全国がん登録広島県がん情報集計報告書(令和2年集計)

2 広島市におけるがん検診の実施状況

(1) がん検診の受診率の推移（令和2年度～令和6年度）



子宮頸がん検診

区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
対象者数 (人)	220,665	188,061	188,258	189,291	190,706
受診者数 (人)	30,372	32,890	32,418	32,409	31,120
受 診 率 (%)	29.3	33.6	34.7	34.2	33.3

乳がん検診

区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
対象者数 (人)	170,555	152,472	152,669	153,702	155,117
受診者数 (人)	20,094	23,194	22,935	23,354	22,771
受 診 率 (%)	26.0	28.4	30.2	30.1	29.7

肺がん検診

区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
対象者数 (人)	266,478	250,795	250,938	252,626	254,868
受診者数 (人)	62,263	64,621	69,631	70,093	70,687
受 診 率 (%)	23.4	25.8	27.7	27.7	27.7

大腸がん検診

区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
対象者数 (人)	266,478	250,795	250,938	252,626	254,868
受診者数 (人)	56,169	58,380	62,094	62,020	62,543
受 診 率 (%)	21.1	23.3	24.7	24.6	24.5

胃がん検診

区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
対象者数 (人)	266,478	250,795	250,938	252,626	254,868
受診者数 (人)	26,101	30,472	30,742	31,945	29,829
受 診 率 (%)	9.8	12.2	12.3	12.6	11.7

広島市のがん検診対象者数 = ① - (②-③) - ④ - ⑤

- ①40歳以上の人口（「R2.国勢調査報告」第1次資料）
- ②40歳以上の就業者数（「R2.国勢調査報告」第2次基本資料）
- ③農林水産業従事者数（「R2.国勢調査報告」第2次基本資料）
- ④要介護4・5の認定者
- ⑤被爆者手帳保持者

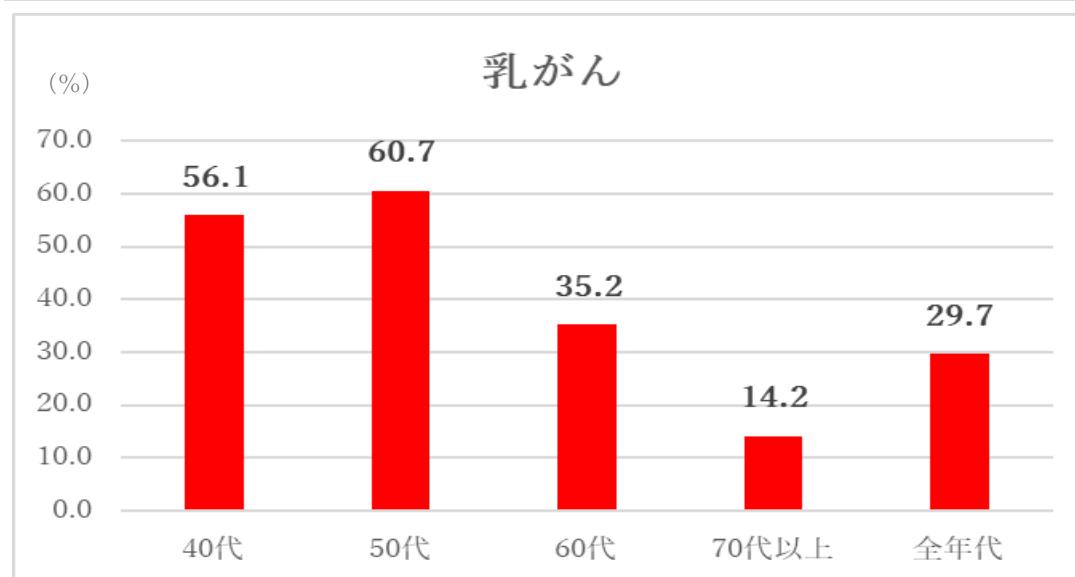
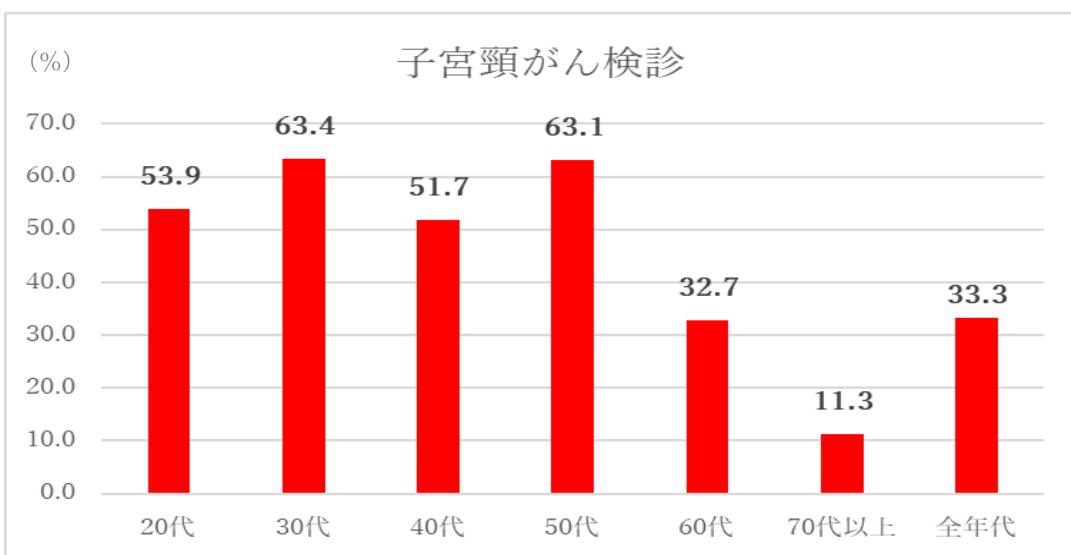
- ※ 従来から使用していた県内統一の算出方法により算出。
(男女別 5歳刻みの各年齢群での対象者数の合計人数)
- ※ 子宮頸がん検診については、20歳以上を対象。
- ※ 子宮頸がん検診及び乳がん検診の受診率は、前年度と当該年度2か年の合計受診者数を当該年度の対象者数で除して算出。

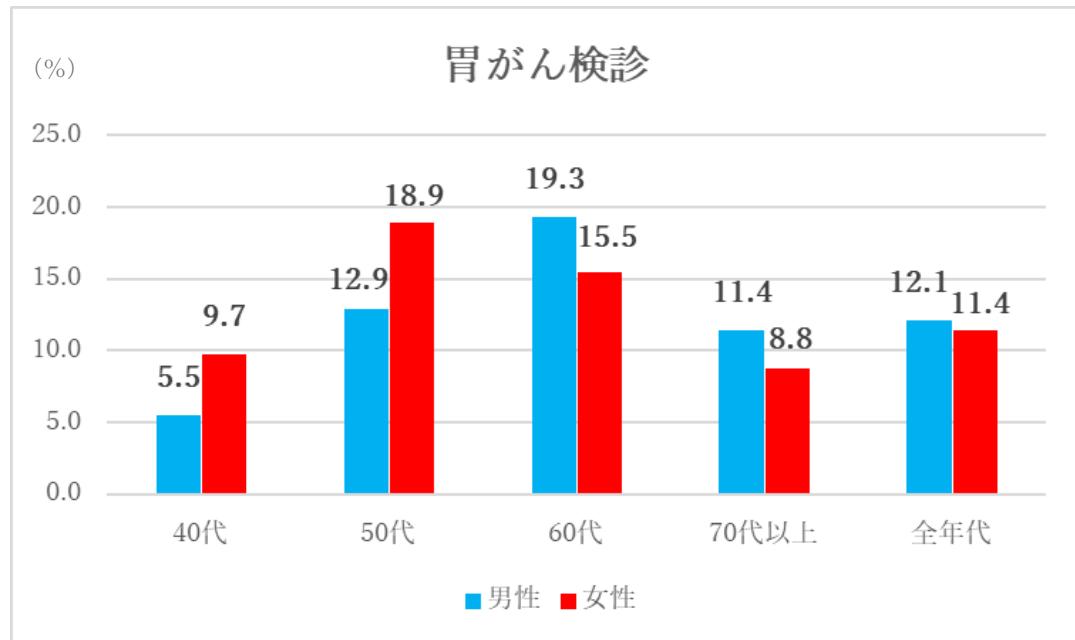
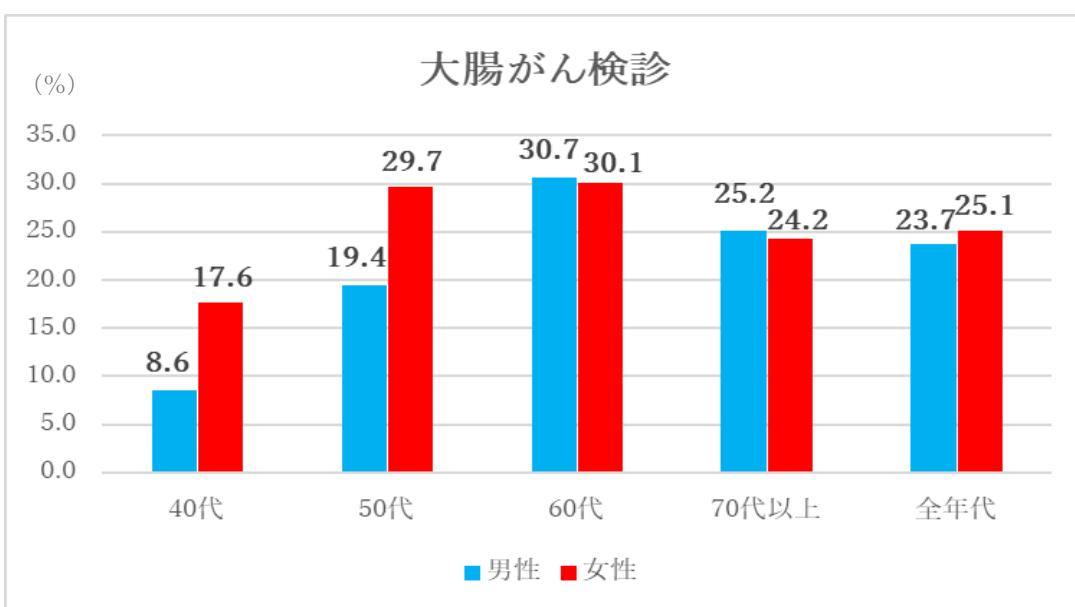
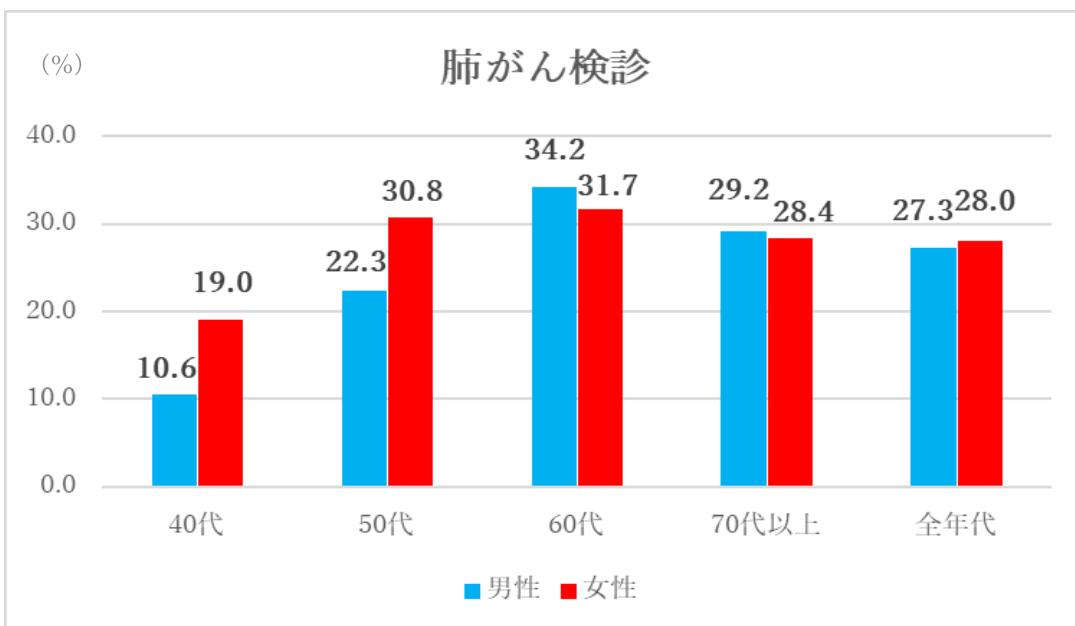
【参考】 地域保健・健康増進事業報告における受診率

令和6年度	子宮がん	乳がん	肺がん	大腸がん	胃がん
対象者数（人）	508,344	381,063	717,472	717,472	717,472
受診者数（人）	23,805	22,771	70,687	62,543	29,829
受診率（%）	4.7	5.8	9.9	8.7	4.2

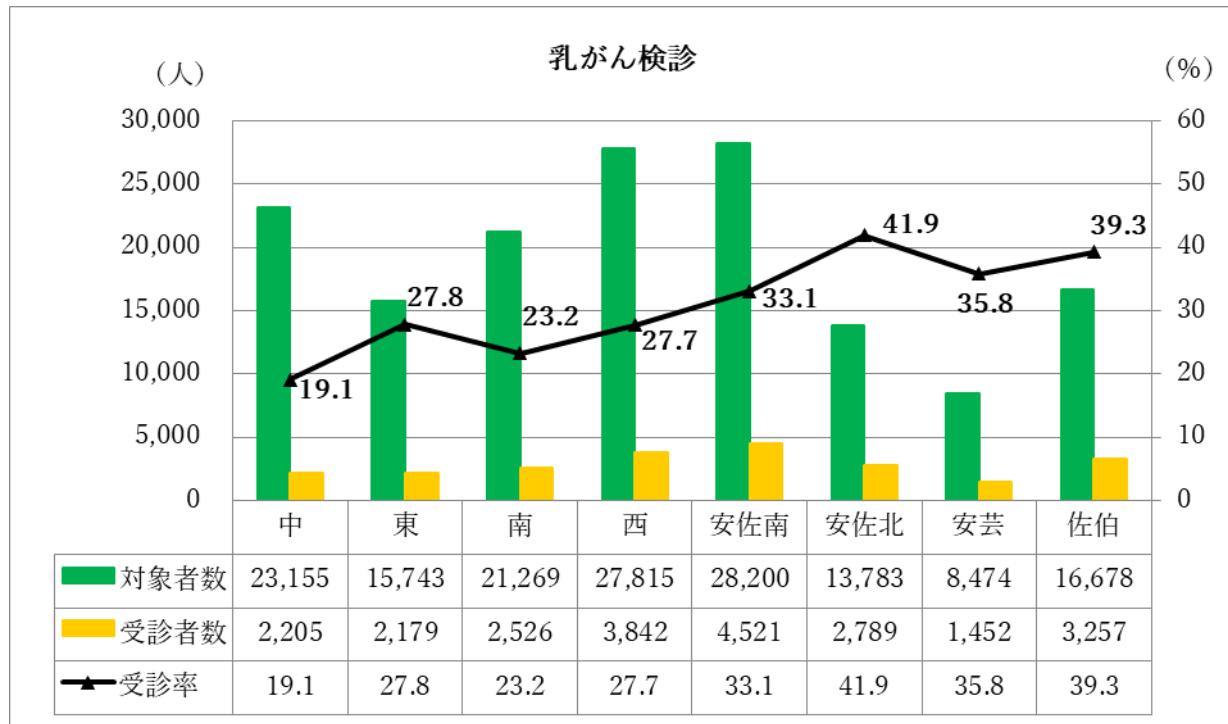
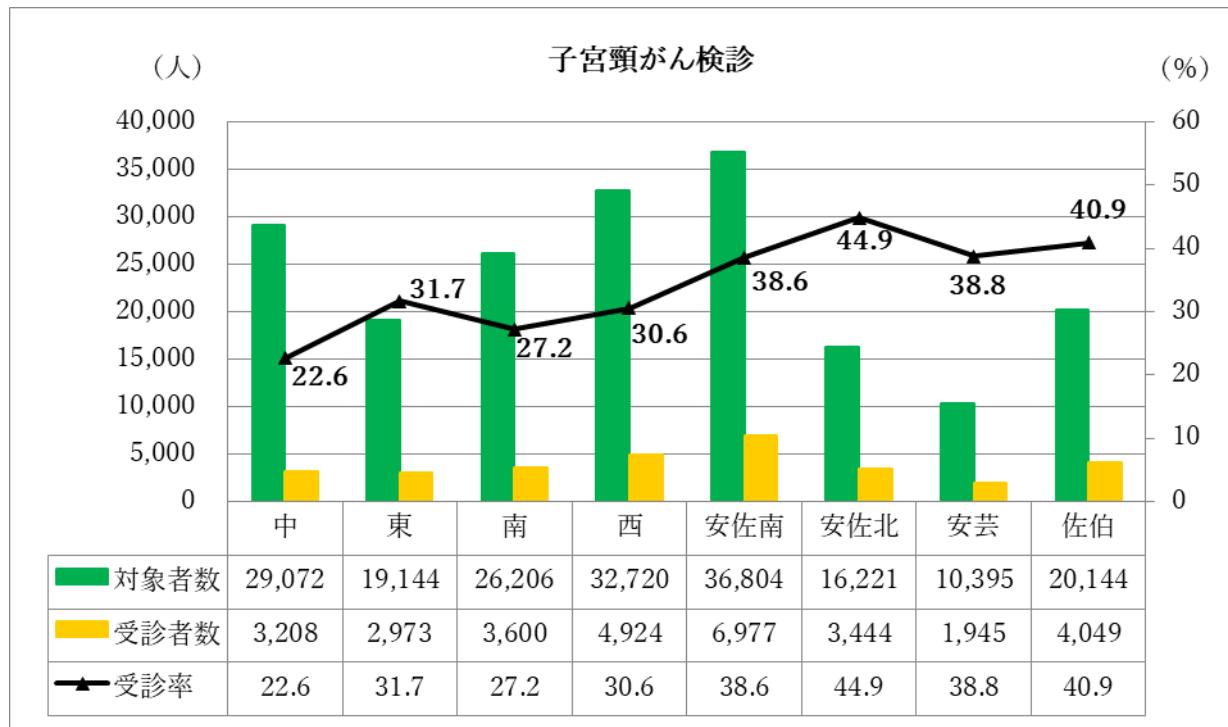
※ がん検診対象者数については、国の「市町村におけるがん検診の受診率の算定方法について」により「市町村の住民全体とすること」とされている。

(2) がん検診の年代別・男女別受診率（令和6年度）

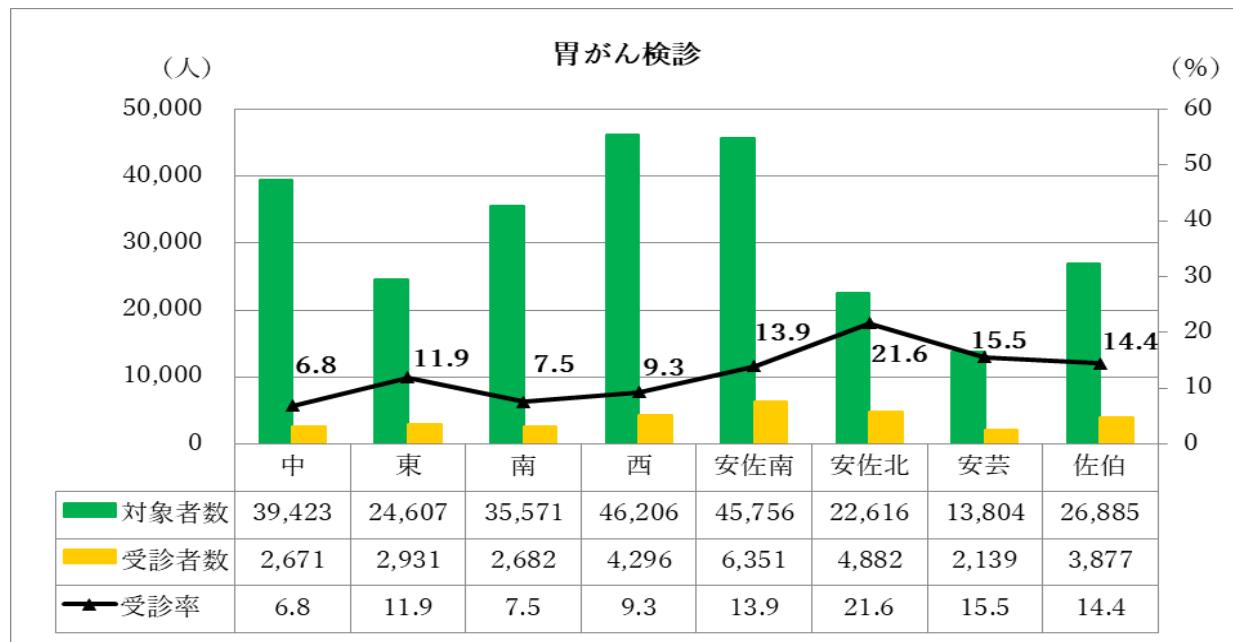
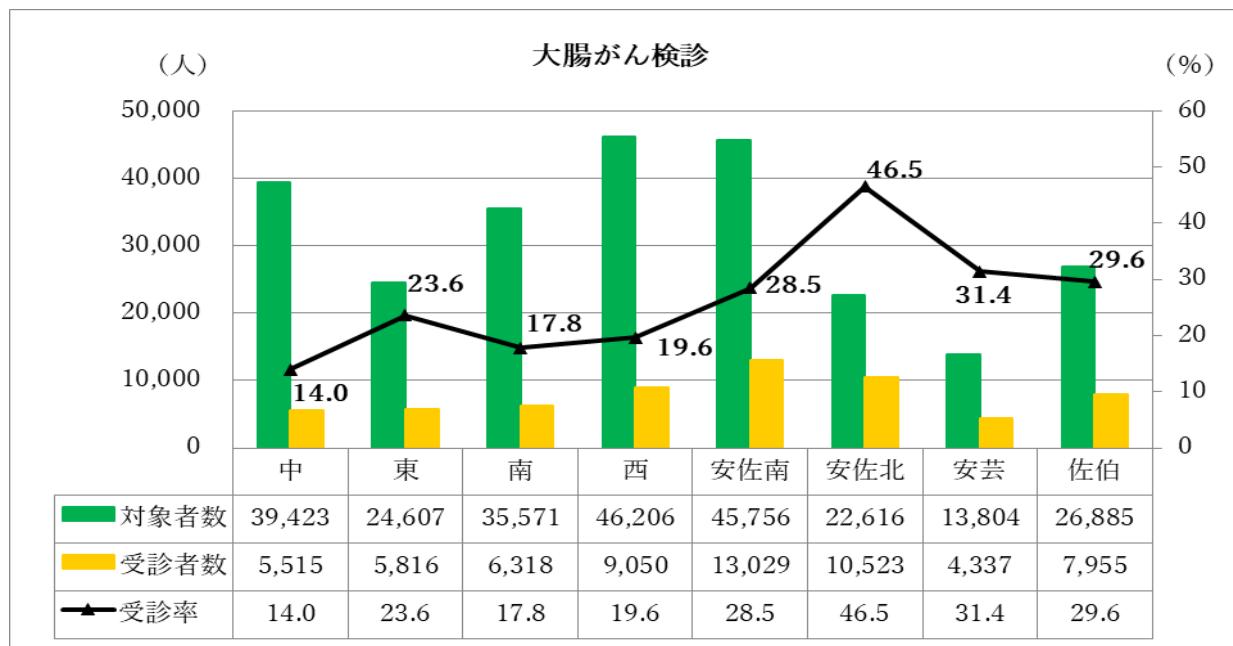
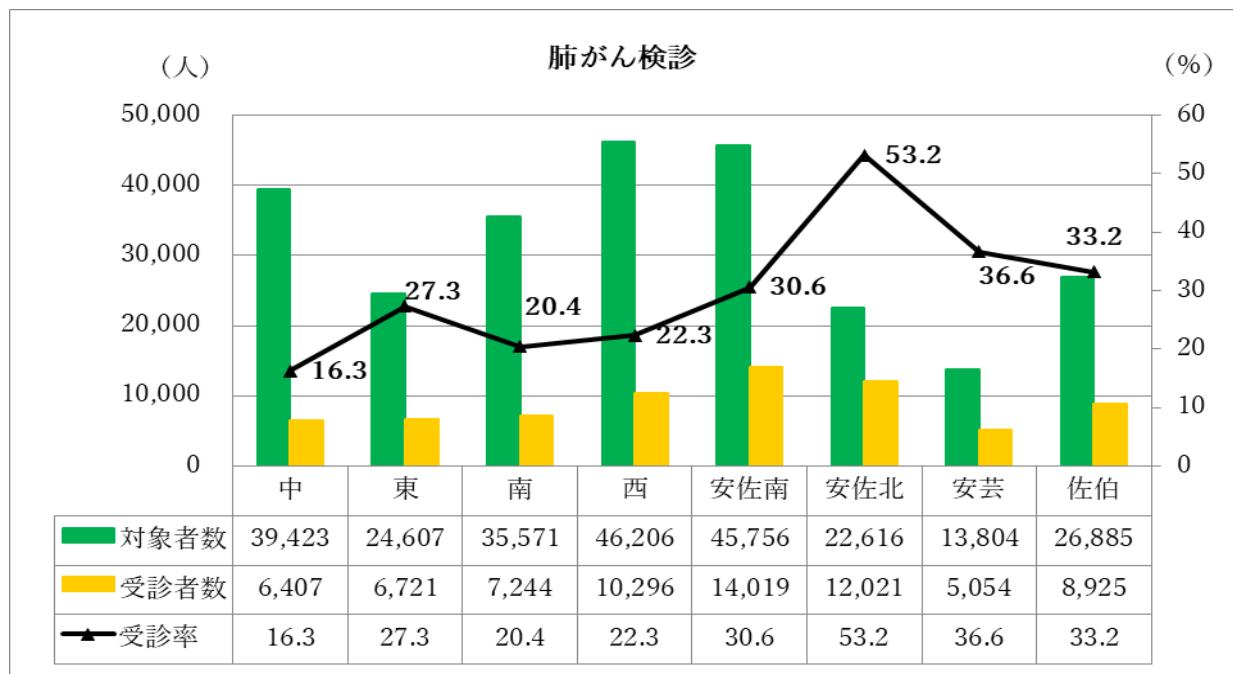




(3) がん検診の区別受診状況（令和6年度）



※ 子宮頸がん検診及び乳がん検診の受診率は、前年度と当該年度2か年の合計受診者数を当該年度の対象者数で除して算出。



広島市がん検診事業評価指標について

1 令和3～5年度がん検診実施状況

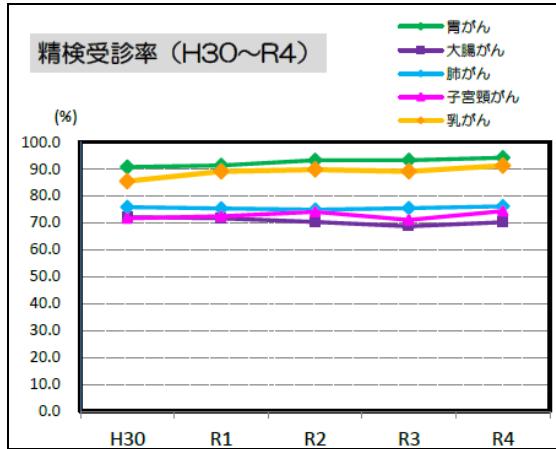
※青字：目標値（全ての県が目標とすべき値）に達しているもの 赤字：目標値（全ての県が目標とすべき値）を達していないもの

部位	項目	広島市			広島県
		受診率(R3) 要精検率～陽性反応 的中度(R2) (%)	受診率(R4) 要精検率～陽性反応 的中度(R3) (%)	受診率(R5) 要精検率～陽性反応 的中度(R4) (%)	
胃がん	受診率(40(50)～69歳)	6.7	7.2	7.3	7.0
	要精検率(40(50)～69歳)	7.3	6.5	6.3	5.7
	精検受診率(40(50)～69歳)	93.3	93.2	94.2↑	89.4
	精検未受診率(40(50)～69歳)	0.1	0.4	0.0↓	3.6
	精検未把握率(40(50)～69歳)	6.6	6.4	5.8↓	7.0
	がん発見率(40(50)～69歳)	0.18	0.15	0.13	0.10
	陽性反応的中度(40(50)～69歳)	2.46	2.26	2.03	1.78
大腸がん	受診率(40～69歳)	5.5	5.8	5.7	5.9
	要精検率(40～69歳)	8.2	6.9	6.5	6.2
	精検受診率(40～69歳)	70.3	68.7	70.3↑	70.4
	精検未受診率(40～69歳)	2.3	2.4	2.4→	11.1
	精検未把握率(40～69歳)	27.4	28.9	27.4↓	18.5
	がん発見率(40～69歳)	0.21	0.15	0.17	0.15
	陽性反応的中度(40～69歳)	2.55	2.19	2.58	2.49
肺がん	受診率(40～69歳)	5.9	6.2	6.2	5.5
	要精検率(40～69歳)	2.4	2.3	2.4	1.8
	精検受診率(40～69歳)	74.9	75.5	75.9↑	76.7
	精検未受診率(40～69歳)	1.8	1.1	1.4↑	4.2
	精検未把握率(40～69歳)	23.3	23.4	22.7↓	19.0
	がん発見率(40～69歳)	0.04	0.05	0.03	0.02
	陽性反応的中度(40～69歳)	1.52	2.17	1.44	1.35
子宮頸がん	受診率(20～69歳)	13.4	9.5	11.1	13.4
	要精検率(20～69歳)	2.5	3.6	9.5	2.8
	精検受診率(20～69歳)	74.1	71.1	74.4↑	73.0
	精検未受診率(20～69歳)	1.9	1.2	0.7↓	2.9
	精検未把握率(20～69歳)	24.0	27.7	25.0↓	24.1
	がん発見率(20～69歳)	0.03	0.02	0.14	0.18
	陽性反応的中度(20～69歳)	1.04	0.54	4.69	6.44
乳がん	受診率(40～69歳)	11.8	12.4	12.1	12.7
	要精検率(40～69歳)	6.2	5.7	5.2	6.2
	精検受診率(40～69歳)	89.8	89.1	91.2↑	90.2
	精検未受診率(40～69歳)	0.8	1.3	0.5↓	2.6
	精検未把握率(40～69歳)	9.4	9.7	8.2↓	7.2
	がん発見率(40～69歳)	0.40	0.42	0.34	0.33
	陽性反応的中度(40～69歳)	6.33	7.32	6.56	5.33

【参考】がん検診事業評価指標値

「がん検診事業のあり方について」(令和5年6月)よりプロセス指標基準値について改正があり、各がん検診に設定されていた許容値が廃止され、各がん検診の精検受診率についての「目標値90%」のみとなった。

2 40-69 歳の要精検者における精検受診率

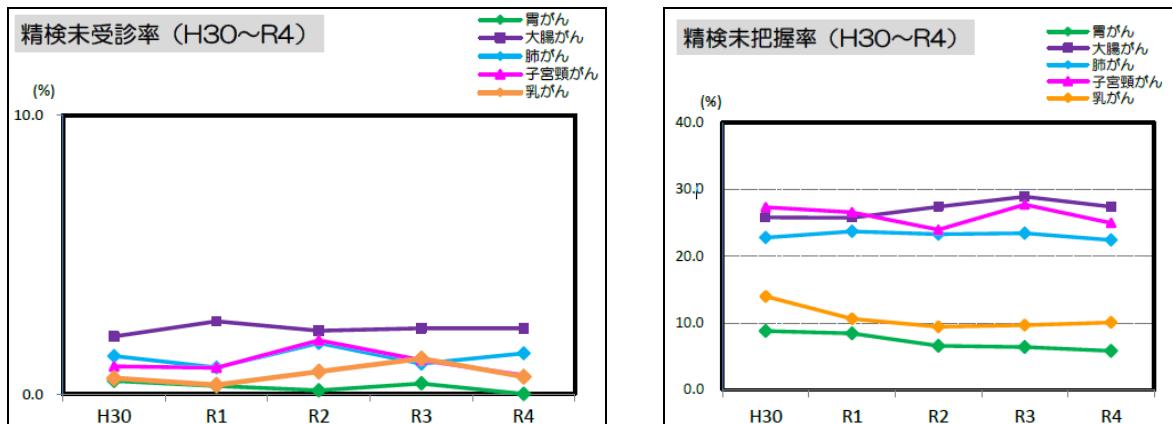


胃がん、乳がんは、目標値の 90%以上を達成している。(乳がんについては、R3 年度まで目標値を達成していなかった)

5 つのがん検診においても、R2~R3 年度に比べて精検受診率は増加している。

また、いずれのがん検診においても、広島県の精検受診率を越えている。

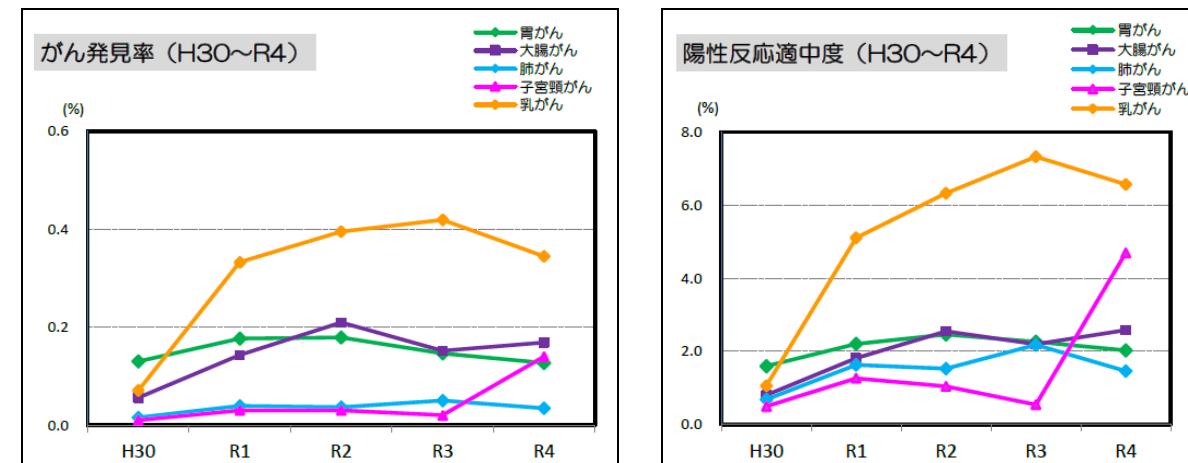
3 40-69 歳の要精検者における精検未受診率・精検未把握率



精検未受診率は、5 つのがん検診において概ね横ばい傾向である。

精検未把握率は、5 つのがん検診において R3 年度と比べ減少している。大腸がん検診は、R 元年度以降增加傾向だったが、R4 年度は減少している。

4 40-69 歳の受診者におけるがん発見率・陽性反応的中度

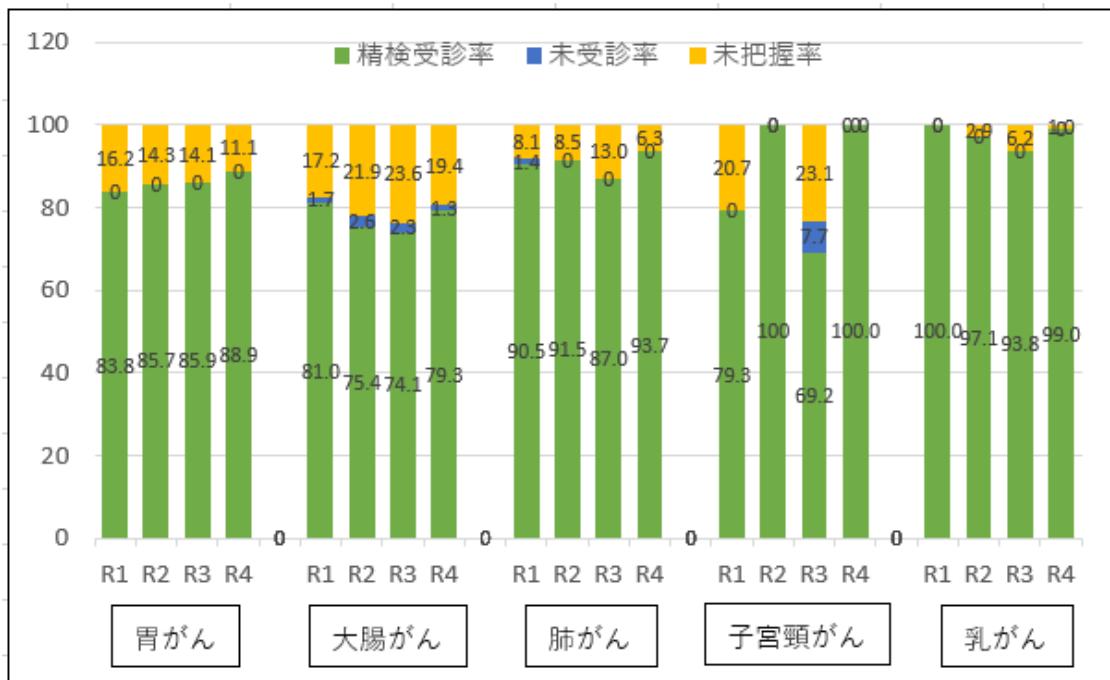


がん発見率及び陽性反応的中度については、子宮頸がん検診以外は概ね横ばい傾向にある。子宮頸がんは、R4 年度から、がんであった者の定義が CIN3 以上（高度異形成）を含むに変更しており、増加している。

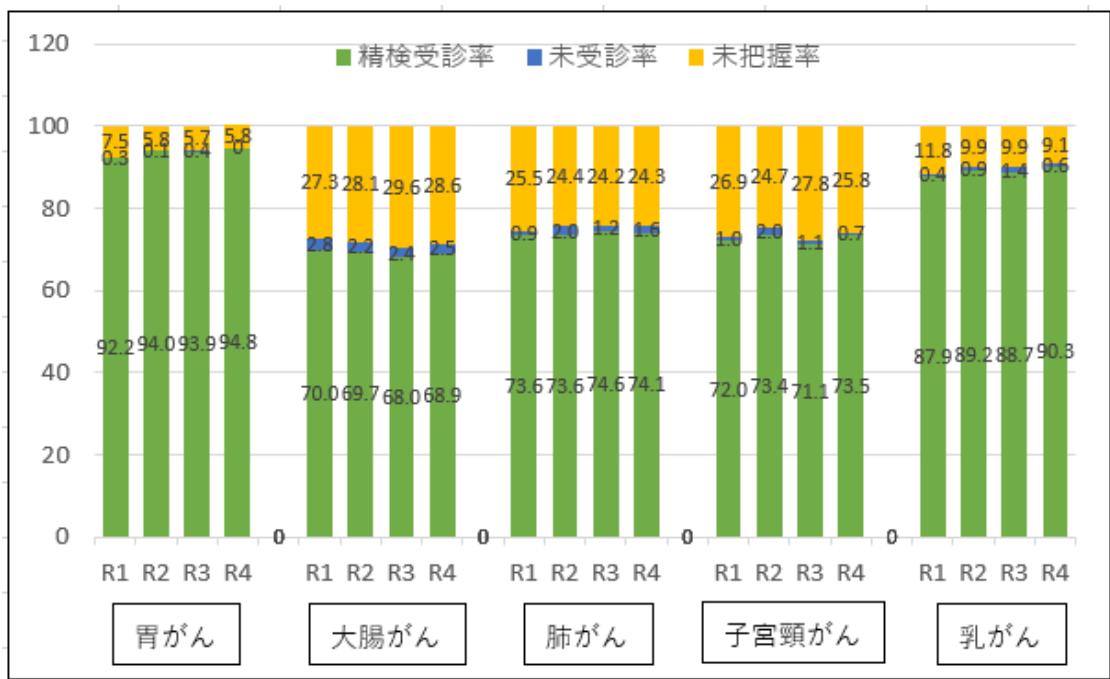
データソース：広島県公益財団法人広島県地域保健医療推進機構

5 40-69 歳の要精検者における集団検診と個別検診の精密検査受診状況

(1) 集団検診



(2) 個別検診



(3) (1)と(2)の比較結果

胃がん検診は集団検診に比べ、個別検診の方が精検受診率が高く、精検未把握率が低い状況である。これは、個別検診において、年々、胃内視鏡検査を選択する受診者が増加しており、胃内視鏡検査では1回の受診で精密検査まで終了することが可能なためである。

大腸がん検診、乳がん検診、肺がん検診については、集団検診の方が精検受診率が高く、精検未把握率も低い状況である。

精密検査未把握率改善に向けた取組について

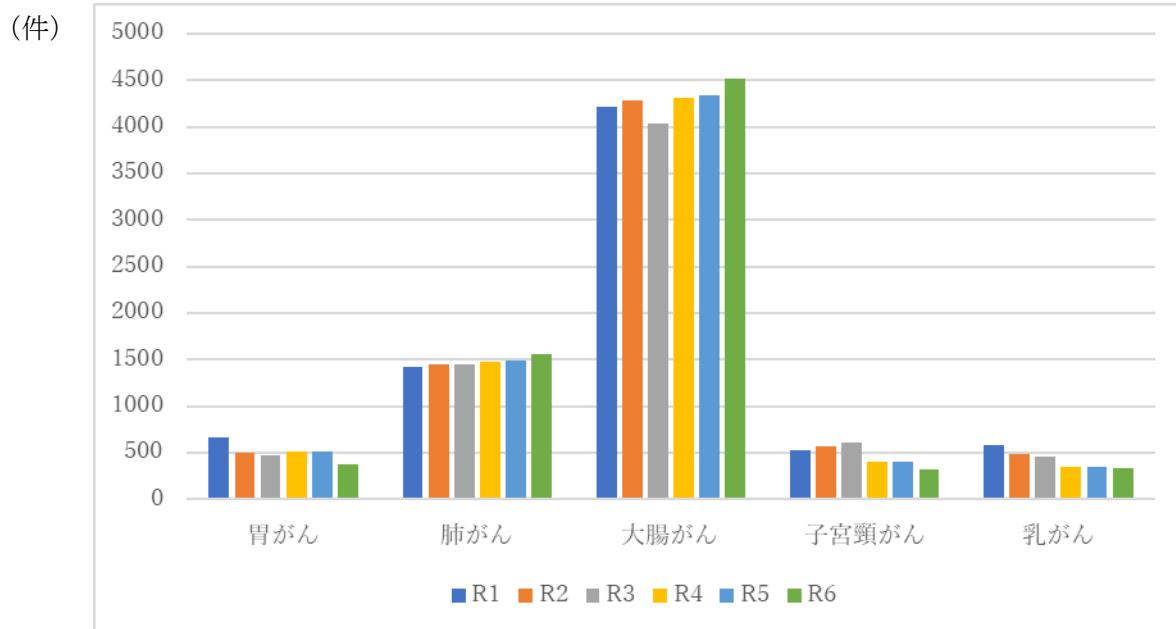
1 精密検査未把握率等の推移

※ 精密検査未把握とは、精密検査受診の有無がわからないもの及び（精密検査を受診したとしても）精密検査結果が報告されないもの。

(1) 精密検査受診結果未把握者への受診勧奨及び結果報告依頼送付数の年次推移

精密検査受診結果未把握者に対し、受診勧奨及び精検受診結果報告の依頼について、返信用封筒（切手不要）を同封し、個別に送付している。

【各がん検診精密検査受診結果未把握者への受診勧奨及び結果報告依頼送付数】



(2) 精検未把握率の推移

医療機関及び要精検者に対してそれぞれに対策を講じているが、5つのがん検診の中でも大腸がん検診は要精検者のうち約3割の精検受診状況が未把握であり、未把握率は増加傾向にある。

【40-69歳の受診者における各種がん検診の精検未把握率の経年推移】

	R1	R2	R3	R4
胃がん	8.4%	6.6%	6.4%	5.8%
肺がん	23.7%	23.3%	23.4%	22.7%
大腸がん	25.8%	27.4%	28.9%	27.4%
子宮頸がん	26.6%	24.0%	27.7%	25.0%
乳がん	10.6%	9.4%	9.7%	8.2%

2 今年度の取組

(1) 精密検査結果未把握者に対する受診勧奨及び結果報告依頼（参考資料1）

検診実施医療機関から精検結果連絡票の提出がなく、精検の受診状況が把握できない者に対し、文書の内容を端的に分かりやすく改訂した結果報告依頼及び受診勧奨ちらしを送付している。

(2) 各医師会を通じた精検結果報告の提出に係る協力依頼（参考資料2）

検診実施医療機関からの精検結果連絡票の提出率を向上させるための取組として、令和7年8月に、各医師会を通じて周知を行った。

(3) 大腸がん検診に係る精検結果把握状況の調査の実施

精検結果未把握率が最も高い状況が続いている大腸がん検診について、未把握者減少に向けた今後の取組を検討するため、要精検者の多い個別医療機関に対し、要精検者の精検受診状況の把握等について調査を行った。

【調査の概要】

調査期間：令和7年7月9日～7月25日

対象：令和5年度に大腸がん検診の要精検者が10人以上の17医療機関

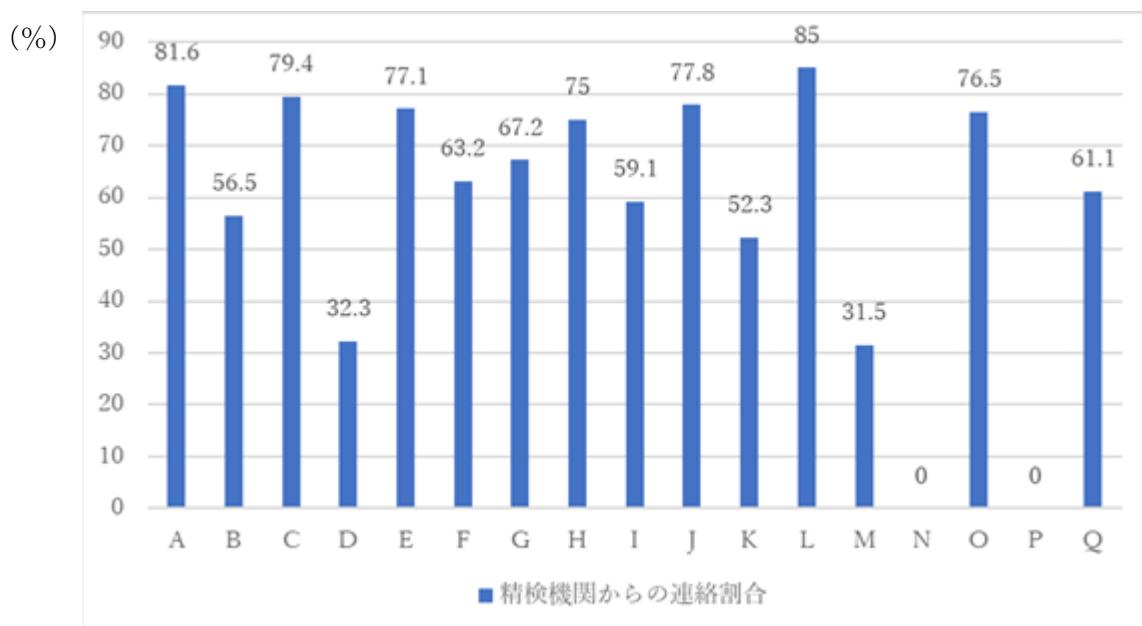
調査方法：電子メールまたは郵送により調査票を送付（参考資料3）

回答数：17医療機関

【調査結果】

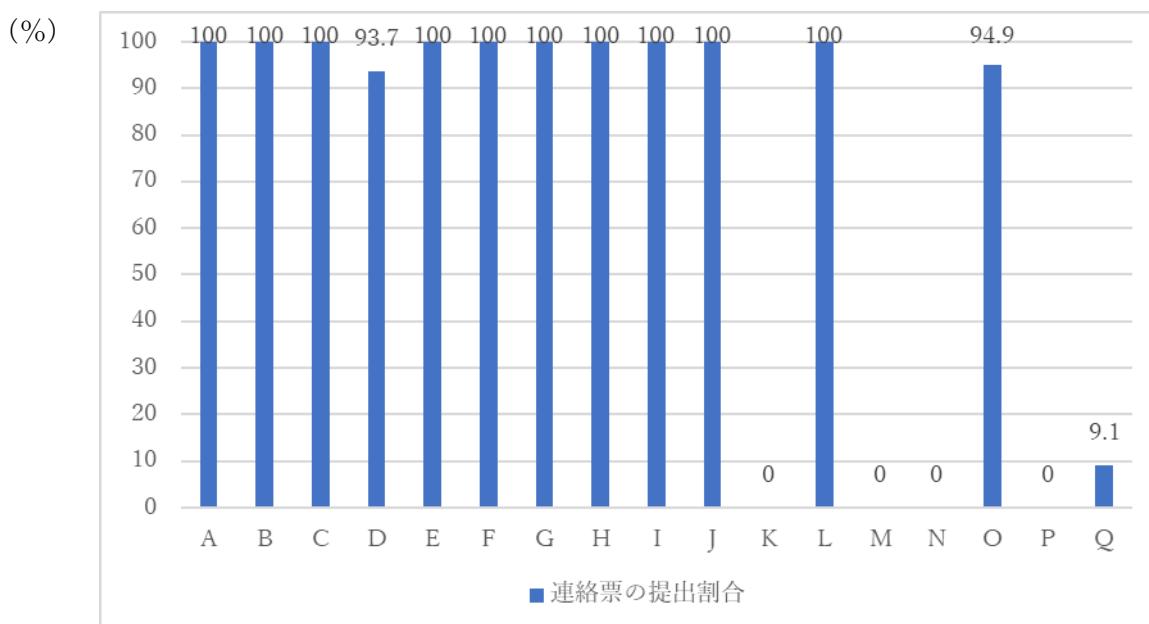
(ア) 要精検者のうち、

検診実施医療機関が精検実施医療機関から検査結果の連絡を受け取った人数の割合



(イ) 検診実施医療機関が検査結果を受け取った人のうち、

本市に「精密検査結果連絡票」を提出した人数の割合



(ウ) 本市に「精密検査結果連絡票」を提出していない理由（複数回答可、回答対象：7 医療機関）

- ① 広島市に「精密検査結果連絡票」を送付することを知らなかった：2
- ② 送付する負担が大きかった：2
- ③ 送付する必要性を感じない：1
- ④ 送付することを忘れていた：0
- ⑤ その他の理由：5

- ・自院で紹介状を作成していた為、返書が来ても連絡票に転記までしていなかった。
- ・精密検査実施医療機関からの送付が確認できなかった。
- ・紙への転記作業が負担である。データ報告などの DX 化を検討してほしい。
- ・運用に対する見解の相違（検診結果送付時に「精密検査結果連絡票」の送付が全員へ必要と理解していなかった）
- ・対象者へ紹介状（精密検査結果連絡票と同様の内容を記載した書式）をお渡ししているが、診療情報提供書（受診先病院の書式）で精検結果報告が届いていた。

(エ) 他院に紹介する場合、要精検者に本市の「精密検査結果連絡票」を渡しているかどうか

(回答なし：1 医療機関)

- ① 全ての要精検者に対し説明の上渡している：10
- ② 要精検者に精密検査結果連絡票を渡すよう正在しているが、一部の要精検者には渡せていない：1
- ③ まったく渡していない：5

(渡せていない理由)

- ・自院作成の紹介状を渡している為、精密検査結果連絡票は要精検者に渡していない。
- ・精密検査結果連絡票は、他院からの紹介状の返信内容を確認し、自院で記入しているため、要精検者には渡していない。
- ・かかりつけ患者だけでなく、一見さんも検診を受けるため、精検を自院で受けるか他院で受けるかを検診時に把握することが困難である。自院で精密検査を受ける場合は、「精密検査結果連絡票」のみで紹介状は不要であるため、患者への結果送付時点では「精密検査結果連絡票」の送付が不要と思っていた。

※他院から「精密検査結果連絡票」の①検診実施医療機関用、②広島市健康推進課用を自院へ返送する運用となっているが、①②を広島市健康推進課に所定の返信用封筒にて送付し、①をまとめて市から医療機関に送付するのはいかがでしょうか。

- ・要精検者には当院指定の診療情報提供書を渡して、精密検査を促しているが、「精密検査結果連絡票」はお渡しできていない。

3 次年度の取組方針（案）

国の「がん検診事業のあり方について」によると、精検未把握率を下げる主な対策として、精検結果の回収率を上げる、精検結果回収に関する機関に協力を求めるなどが示されている。

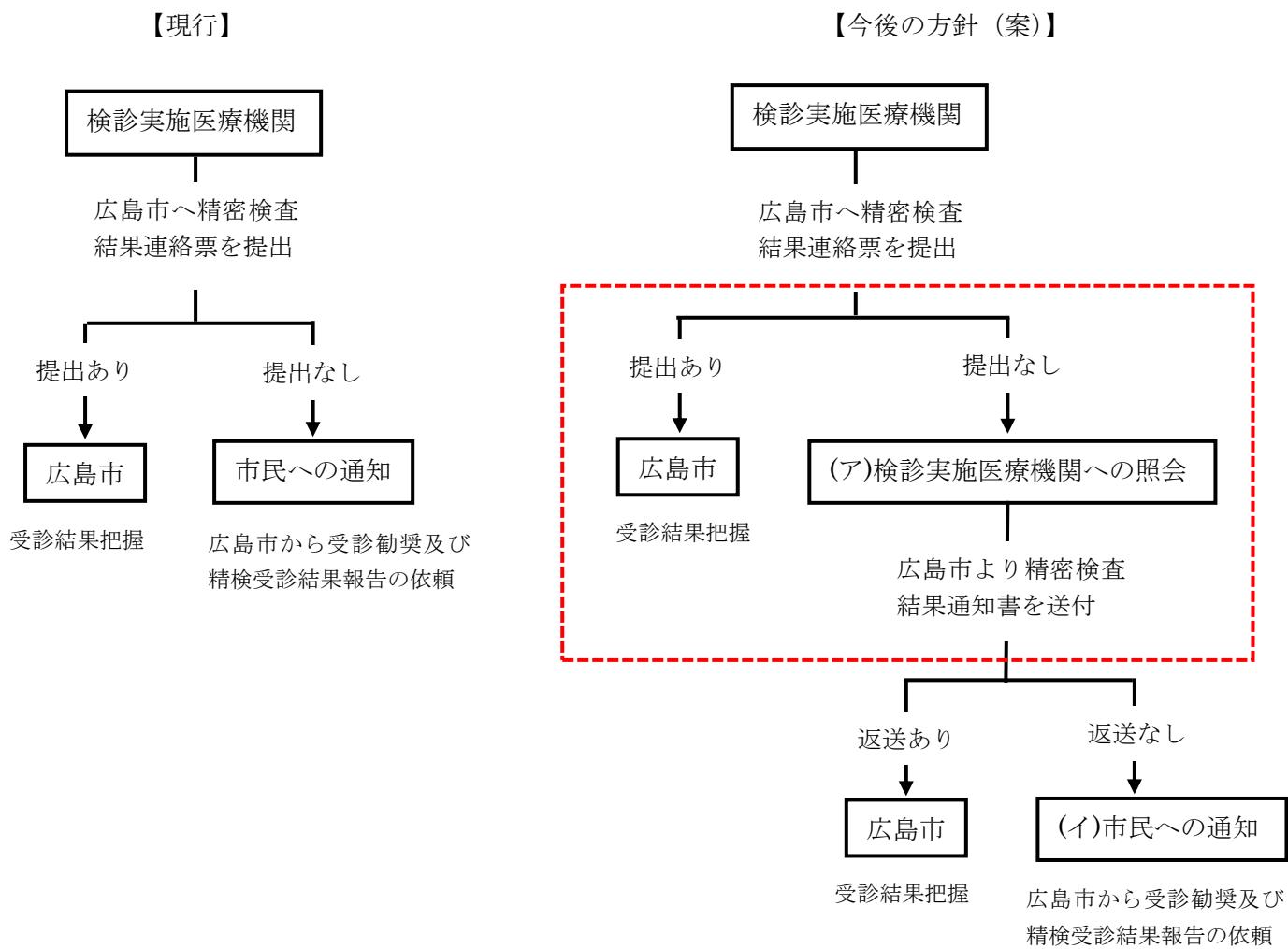
本市では、精検結果の回収に対する協力については、毎年度、各医師会を通じて依頼しているが、さらに精検結果の未把握率を下げるため、次年度、以下の取組を行うこととしたい。

（ア） 検診実施医療機関への照会（別添案のとおり）

今回の調査において、要精検となった場合は自院で紹介状を作成している、診療情報提供書で結果報告が届く、精検結果連絡票の送付が必要という認識がなかった等の理由で精検結果連絡票の提出が徹底できていない医療機関があったことから、一定期間が経過しても本市に精密検査結果連絡票が届いていない未把握者について、別添案により本市から検診実施医療機関に対し照会を行い、専用の返信用封筒で返信を求める。

（イ） 市民への通知（参考資料1）

（ア）で返信がない場合、精密検査結果未把握者本人に対し、受診勧奨及び精検受診結果報告の依頼を送付する。



4 その他がん検診の精度管理における取組

- ・胃内視鏡検査精度管理評価部会の開催（令和7年8月22日開催）
- ・がん登録データを活用したがん精度管理事業の実施（広島県との共同事業）